

令和6年度 第2回 監査委員会 議事録

開催日時 令和7年2月14日（金）午後6時30分～午後8時20分

場 所 杏林大学医学部附属病院会議室B（第2病棟2階）

出席者 委員長 宇井 義典（医療法人社団佳仁会理事長、三鷹第一クリニック院長、
三鷹市医師会監事・前会長）

委 員 渡邊 卓（学校法人杏林学園理事、杏林大学長）

白戸 謙一（三鷹市健康福祉部健康推進課長）

橋本 雄太郎（杏林大学総合政策学部元教授）

山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長）

オブザーバー 近藤 晴彦（杏林大学医学部附属病院院長）

平野 照之（杏林大学医学部附属病院副院長、医療安全管理部長、医療安全管理責任者）

吉田 正（杏林大学医学部附属病院薬剤部長、医薬品安全管理責任者）

森山 潔（杏林大学医学部附属病院医療機器安全管理責任者）

大荷 満生（杏林大学医学部附属病院医療安全推進室長）

武井 秀史（杏林大学医学部附属病院医療安全推進室副室長）

高橋 雅人（杏林大学医学部附属病院医療安全推進室副室長）

内田 貴之（杏林大学医学部附属病院専従リスクマネージャー）

古田 志津江（杏林大学医学部附属病院専従リスクマネージャー）

古島 瑠美（杏林大学医学部附属病院専従リスクマネージャー）

中山 英明（杏林大学医学部附属病院医療安全推進室専従薬剤師）

中野 貴仁（杏林大学医学部附属病院医療安全管理課長）

鈴木 晃子（杏林大学医学部附属病院医療安全管理課長補佐）

高野 智博（杏林大学医学部附属病院医療安全管理課長補佐）

事務局 小野里 芳久（杏林学園総務課長）

藤本 美佐緒（杏林学園総務課長）

中野 かおる（杏林学園総務課長補佐）

議 題 医療安全への取り組みについて

監査項目 ・鎮静管理（小児）の説明書について
・服薬指導について
・医療安全管理体制について
・医療安全への新たな取り組みについて
・RRS 起動件数の増加に向けた分析検討の実施 他

監査結果・委員からの講評

・鎮静管理（小児）の説明書について

医薬品副作用被害救済制度がPMDA（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）によって運用されていることを説明書に追記し、患者が認識できるようにしていただきたい。また、「適応外使用で健康被害が生じた場合は、現在の医学・薬学の学問水準に照らして総合的に判断される。」という記載における、「学問水準」という表記はPMDAからの引用であり差し支えないと考える。

・服薬指導について

院内にて処方する薬は、朝食後、昼食後、夕食後、就寝前に服用する薬がそれぞれ一包化され、一つの薬袋に梱包されているため、患者が異なる服用時間の薬を誤って服用する事例が発生した。このことから、中を確認しながら丁寧に説明を行う対策を講じたことは非常によい取り組みである。高齢の方が、暗い場所でも薬の服用時間を視認できるように、薬袋の服用時間をさらに大きく表示できないか検討していただきたい。

また、当院での取り組みを院外の薬局にも周知し、院外処方により包材が変わった場合でも、患者が困

惑しないよう連携を強化していただきたい。

- ・ R R S 起動件数について

とても良い取り組みであり、院内での周知も進んでいるため、継続していただきたい。

- ・ 当院における医療事故対応への取り組み

電気メス使用時の消毒剤については、ポピドンヨードの使用を推奨し、再発防止に努めていただきたい。また、ガーゼ遺残については、スタッフ全員でカウントをする時間を設けるなど、基本的な手順を順守するよう再度徹底していただきたい。

- ・ A C P への取り組み（医療倫理）

現在、一部の診療科で限定的に運用している A C P の実績をもとに、患者へ A C P の目的の周知や啓発を推進していただきたい。

以上